

吉村知事「1日で文通費100万円、記憶ない」は嘘！当時、橋下相手に「もうちょっと内緒に」「第2の財布」と発言、違法疑いの横流し記録も発見

2021.11.16 10:58

案の定と言うべきか。日本維新の会副代表の吉村洋文・大阪府知事が火付け役となった「文書通信交通滞在費」（文通費）の問題で、昨日、本サイトでお伝えしたように、吉村知事も衆院議員時代、月の在職日数が1日しかなかったにもかかわらず文通費を満額である100万円受け取っていたと認めた。しかし、本日放送された『ひるおび!』（TBS）や『バイキングMORE』（フジテレビ）などのワイドショーでは、吉村知事の100万円受け取り問題は一切批判せず、『バイキング』にいたっては野党叩きが繰り広げられる始末だった。

こうしたメディア報道に調子づいたのか、問題の張本人である吉村知事は、きょうの会見でこんなことを言い出した。

「ブーメランだと思いますけど、良かったと思ってます。これがきっかけで大きく動いて、与党も返金するってことまでなったわけですから。我々が大騒ぎしてなかったら、そんななってなかったですからね」
「ブーメラン刺さってますけど、社会が良くなればそれでいいと思います」

ドヤ顔で「どうやら1日だけでも国会議員の身分となったので、10月分、100万の札束、満額支給らしい」「これが国会の常識。おかしいよ」と批判していた張本人が、まったく同じように100万円を受け取っていたというのに、「社会が良くなればそれでいい」って、よくもまあここまで開き直れるものか。

しかも、吉村知事の「当時の記憶がない」「意図的に10月1日に辞めたわけではない」という言い訳が大嘘だったことが明らかになった。

吉村知事は昨日の会見やTwitterでの説明において、「当時の記憶というのは正直あまりない」「当時、市長選に挑戦するということに頭がいっぱいだったので、あまり日割りがどうか記憶はない」と身に覚えがないことを主張。さらに、本日の会見でも、「2015年10月1日に辞職したのは10月分の文通費をもらうためだったのではないか」という疑義の声に対し、「文通費を細かく考えて対応するのであれば、文通費を受けれる立場、権利のある国会議員を続けていた」「そういうコスイことはしない」と反論。記者から「当時は文通費について問題意識はなかったということか」と問われると、吉村知事はこう答えた。

「うん、あの、いま2015年の意識というのを振り返ったことを言ってもあんまり意味がない」

「2015年の頃というのは、文通費とかいろんな議員の厚遇の問題も指摘されはじめてますけど、それ全部、放棄を自分でして、通るか通らないわからない選挙に挑戦すると判断したのが、僕の頭の中の99%だった」

ようするに、衆院議員を辞めて大阪市長選に挑戦することで頭はいっぱいで文通費のことを考える余裕もなく、文通費を満額ゲットしようなどというそろばんを弾くようなコスイことはするはずもない、といったわけだ。

だが、吉村知事は、2015年、たった1日で文通費をもらったと思われる前後に、橋下徹と松井一郎を前にして、文通費に言及。「もうちょっと内緒にしといてもらったら（笑）。あれ、完全に第2の財布ですからね」などと語っていたのだ。

当時、吉村氏が橋下徹に文通費について笑いながら「もうちょっと内緒にしといてもらったら（笑）。完全に第2の財布ですから」

発言があったのは、2015年10月6日にニコニコ生放送で配信された「【大阪維新の会特番】鼎談 橋下徹・松井一郎・吉村洋文～吉村洋文の素顔を大公開～」というもの。この鼎談は番組タイトルにもあるように、同年5月の「大阪都構想」住民投票が否決されたことを受けて政界引退を決めた橋下市長の後任候補予定者として吉村氏をアピールしようという内容だったのだが、「国会議員のVIP待遇」について語るなかで、このような会話が繰り返されていたのだ。

吉村「何も信念とか理念とか『こういうことやりたい』っていう思いがないまま当選しちゃうと、勘違いするって言い方悪いんですけど、こんな待遇になるとなかなか抜け出せないし、議員は辞めれないと思いますね」

橋下「それで給料だってね、普通に民間人になってそれだけ稼げるメンバーが国会議員に何名いるかと言ったらねえ。2000何百万貰って、しかも毎月100万円？経費をもらうわけでね。文通費ね」

ここで橋下氏が文通費の問題を持ち出すと、すかさず吉村氏は、間髪入れずにこうつづけるのだ。

吉村「でも、文通費の公開。あれは本当、市長と幹事長がいいところに目をつけたというか、ウィークなところ突いていただいて（橋下氏と目を合わせて笑い合う）」

橋下「うん（笑）。あれ、だって地方議員は政務調査活動費で……」

吉村「もうちょっと内緒にしといてもらってもねえ（笑）。もうちょっと内緒にしといてもらったら（笑）。あれ（文通費）、完全に第2の財布ですからね」

橋下「あれね」

吉村「まあ、維新の会、維新の党は公開するっていうのもう公開してますけど、あれを公開しないところは本当にもう第2の財布で、飲み代や何やに消えてるでしょうねえ」

橋下「それで税金もそこかかってないわけですからね」

吉村「そうです。だから税金がかからないああいう所得……所得じゃないんですけど。僕は弁護士やいろいろな会社の経営の方とか見ますけど、あり得ないですからね。税がかからず自由に使っているいいお金。それが税金だっていうのが、あれはおかしいし、第2の財布になってると思いますね」

橋下「でも、それをいままでの国会議員が『改革だ、改革だ』って言ってる国会議員、誰一人それを変えようとせずね、結局、僕と知事が『これ、おかしいやないか』って言って」

松井「ワーワー言ってね」

橋下「ワーワー言って変わったわけだよね」

吉村「あれ、国会議員からしたらもう大迷惑だと思いますよ（笑）。『そこは言わんといてよ』っていう。『そこは言わんでええんちゃうん？』みたいなところやったと思う。でもそこはあるべき姿だと思いますね。やっぱり税ですんでね」

前述したように、吉村知事はきょうの会見で「2015年の意識というのを振り返ったことを言ってもあまり意味がない」「当時の頭の中の99%は市長選のことでいっぱいだった」と主張していたが、ご覧のとおり、当時の吉村氏は自ら文通費を槍玉に挙げ、「文通費は第2の財布」「あり得ない」「（維新は）ウィークなところを突いた」とその問題意識をあらわにしていたのだ。

「当時は文通費の意識なかった」と言い訳も、100万円受け取り後に橋下徹、松井一郎との鼎談で「文通費は第2の財布」と

しかも、本サイトが昨日、衆議院事務局に確認したところ、「文通費は退職日から7日以内に支払われる」という説明だった。一方、吉村氏が退職したのは10月1日で、この生放送は6日。つまり、「文通費は第2の財布」「おかしい」と口にしていただけに、吉村氏は月の在職日数がわずか1日であったのに満額の100万円を受け取っていたのである。

普通に考えれば、これだけ文通費について問題意識を持っていたのであれば、在職日数1日で100万円も支払われた際に「これはおかしい」と思うはずであり、その出来事は強烈に記憶に残っているはずだ。むしろ、市長選を控えて、今回のように「1日で100万円はおかしい！」と声をあげ、知名度向上に利用することだってできた。だが、吉村知事は「記憶が曖昧」だの「頭の中は市長選でいっぱいだった」などと言うのである。

さらに言えば、橋下氏は2014年の年末には「大阪市長を頼むよ」と吉村氏に話をしたと当時の会見で明かしているように、急転直下で10月1日直前に吉村氏が市長選の候補者になったわけではない。また、大阪維新の会が吉村氏を大阪市長選で擁立することを決定したのは2015年9月26日であり、この時点で吉村氏は辞職することもできたはずなのだ。ようするに、吉村知事にとって文通費への問題意識とは、いまでも昔もその程度の話でしかないのだろう。

いや、問題意識どころか、**文通費はたんなる政争の具**でしかなく、「公費の透明性を担保しなければならない」といった信念や理念さえ、吉村氏は持ち合わせていない。

吉村氏はこの鼎談のなかで「あれを公開しないところは本当にもう第2の財布で、飲み代や何やに消えてるでしょうねえ」と述べていたが、当の**吉村氏自身、文通費を「第2の財布」**にしていた疑いがあるのだ。

維新は文通費の使途報告書をネット上に公開しており、それを「身を切る改革政党」の証明であるかのように喧伝してきたが、本サイトでは昨日も言及したように、吉村氏が在職日数1日で100万円を受け取った2015年10月分の吉村氏の使途報告書は公開されていない。他の議員については、維新のHPが2015年10月から使途報告書を掲載しているが、なぜか吉村氏の方は文通費をどのように使ってきたのかがわかる報告書が現在確認できない。

その理由を、昨日本サイトが**維新の党本部**に問い合わせると、維新の担当者は「議員会館の片付けや選挙があったから」とし、今後公開する予定についても「古すぎますのでね」などと言い、**公開に後ろ向きな姿勢**を見せた。

だが、衆院議員時代の吉村氏の政治資金収支報告書を確認すると、その理由が浮かび上がってきた。

吉村は1～9月の文通費を政治資金団体に横流し、10月分はまったく不明で、使途に大きな疑惑が

吉村氏が代表を務めていた政党支部「維新の党衆議院大阪府第4選挙区支部」の**2015年分の政治資金収支報告書**。そのなかの「**寄附の内訳**」の項目には、「吉村洋文（文書通信交通滞在費）」という記載がズラリと並んでいたのだ。

これは、文通費を不適切流用するために横行している「政治団体への文通費横流し」「**セルフ領収証**」のやり口そのものではないか。

吉村知事はさんざん「経費と言いながら領収書が要らない」ことを問題にし、維新はその使途ならびに領収書を公開していると胸を張ってきたが、本サイトでも指摘してきたように、**維新議員の実態は**、文通費を議員が自分宛てで領収書を切って**自分の政治団体に寄附する**という抜け道が横行していた。これは、文通費の使い道を明らかにするどころか、公金を政治資金に化けさせ、さらには何に使ったのかがわからない状態にするものだ。

この維新所属の国会議員による文通費の使途に対し、岩井奉信・**日本大学教授**は「税金で政治資金を賄っていることになり、ふさわしくない使われ方だ」と指摘（朝日新聞2017年12月27日付）。また、上脇博之・神戸学院大学教授も「文通費を政党支部や資金管理団体に繰り入れて寄付することは、公金の目的外支出になるので違法です」と述べている（日刊ゲンダイ2021年5月7日付）。

だが、**吉村氏は**まさにその「違法」「不適切なやり方」をしていた。2015年1月の39万8400円を皮切りに、9月まで毎月30万～65万円もの文通費を寄附として自身の政党支部に横流し。つまり、吉村氏は文通費として受け取った月100万円のうち、ときには半分以上の文通費を自分の政党支部に寄附し、**どういう使われ方をしたのかがわからない状態**にしていたのだ。

さらに、**問題**なことがある。1～9月分については、前述したように政治資金収支報告書に記載があるのだが、在職日数1日で満額100万円を受け取った**10月分については記載がない**のだ。ちなみに、吉村氏が代表を務める政治団体「吉村洋文後援会」および資金

管理団体「友洋会」の2015年分政治資金収支報告も確認したが、これらにも文通費の横流しと思われる寄附の記載はなかった。

たった1日で100万円もの文通費を使い切れるとは、到底思えない。吉村氏はいったいどのように100万円を使ったのか。プライベートにを使ったのか、あるいは時期を考えると出馬した大阪市長選の選挙費用にを使ったのではという疑惑も頭をかすめる。

当時、文通費を「第2の財布」などと問題にし、橋下氏と大合唱しておきながら、その一方であっさり100万円を受け取り、いまごろになって「記憶が曖昧」などと言い張る。この事実ひとつ見ても怪しさしかないが、その上、文通費を違法性も指摘されるかたちで使い、挙げ句、問題となっている2015年10月分の100万円の使途さえいまだ明らかにしようしないという態度では、「確信犯で100万円をかすめとった」という誹りは免れないだろう。

再度言う。吉村知事は「コスいことはしない」と述べたが、それを証明する使途報告書を維新および吉村知事は一刻も早く示すべきだ。

(編集部)

最終更新：2021.11.16 11:01